

語り部ニュース

立命館

国際平和ミュージアム研修

平成二十一年九月二十六日(土) 平成二十一年度養成講座受講生五名の方、会員八名の十三名の参加で研修会を実施しました。

みてかんじてかんがえてその一步をふみだそう

この理念から設立されたこのミュージアムは当会養成講座の研修の場として毎年実施しております。

当日は友の会から5名の方に来ていただき、館内の案内、交流会と大変お世話になりました。研修会風景を写真でお知らせしようと思いましたがあいにく館内は撮影禁止でしたので交流会での感想の一部を紹介します。

↓友の会の方

① 平和創造展示室1で 戦争がなければ平和ですかというメッセージが「非常にインパクトがあった。また、展示室での説明が立命館の学生さんによって行われていたのも良かった。



② 展示物が何か自分に訴えているように感じた。展示方法も要領よく並べた。

↓過去に誠実に向き合えるように被害の部分も加害の部分も展示してある。

③ 十五年戦争がよくわかった。一時間三十分では展示物がゆっくり見れなかった。

子どもたちにも見学させたい。↓修学旅行の一環として来館される学校がある。

④ 展示物の説明文が無駄なく簡潔に書かれていて素晴らしい。

↓リニューアル時に一番苦労したこと。

⑤ 修学旅行案内時の基本的な時間は

↓約1時間ベストは1時間三〇分位

⑤ 小学、中学生見学时は事前学習が必要では。

↓小中学生向けのパンフレットあり。同じ目線で話すようにしている。保育園児等には無理で、紙芝居で対応してる人もいる。

⑥ このミュージアムに長野県にある「無言館」の別館があるのに驚いた。



◎ 行くと共に新たな何かを感じさせるミュージアム 会員の皆さんも再度足を運ばれてはいかがでしょうか。

本年度はグループ単位での研修旅行を実施する予定です。是非ご参加下さい。

国際平和ミュージアム友の会の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。参加されました皆様もお疲れ様でした。 谷口 栄記

理事連絡会議報告 九月

一、市から当会に対して補助金が支給されることになりました。

このお金をボランティア活動で出て下さる方に交通費相当としてお払いすることになりました。支払いの方法は下記の通りですが、これは今年度のための暫定方法で将来にわたつて同じとは限りません。また市からの補助金も将来にわたつて頂けるとは限りません。

二、

新型インフルエンザ流行につき当分記念館へは当番表の記載と関係なく自主判断にて自己責任で行って下さい。

三、

ガイド予約の件、諸般の事情により予約来館者への対応が非常に難しくなつてきましたので次のようにいたします。

九月中に受け付けた予約者については予定通り対応します。十月以降については

当分の間予約の受付を止めにいたします。
以上

- 東舞鶴在住の人・・・400円／1回
- 西舞鶴在住の人・・・600円／1回
- 綾部市在住の人・・・800円／1回
- 上記の人には4回／月を限度として払います。
- 上記以外の遠方在住者に対しては最寄りの駅から東舞鶴駅までの往復バス料金(高速バス)を1回／月を限度として支払います。
- 本年4月から9月までの分を追って支払います。
- 支払いは活動報告ノートへの署名を以て行われますので、くれぐれも間違いのなきようお願いします。(同姓の人は名前まで正確に記入下さい)

企画展示報告

はじめまして、語り部案山子
かたりべかかこです。」



舞鶴 引揚語りの会の皆さんこんにちは。

八月一日から舞鶴引揚記念館特別企画展「紙芝居で子どもたちに引揚を語り継ぐ」の会場で、来館者の皆さんをお迎えしている「語り部案山子」かたりべかかこです。

蔓橋で知られる徳島県三好市祖谷の「案山子の里」からやってきました。本当は制作者の綾野月美さんが昔舞鶴に住んでいた、お友達も居るので一緒に来るはずだ

つたのですが、交通事故のために来られなくなつてクロネコ便でやってきました。

舞鶴の方たちがマネキン人形を使って「引揚当時の母子」の姿を再現しようとして検討しておられたときに、お仲間の一人が旅先で出会った「案山子の里」の仲間の姿を思い出されて、制作を依頼されたのだそうです。

敗戦時、夫を根こそぎ動員で応召され、幼子二人を連れて帰国した女性の姿を再現。荷物を背負うために乳飲み子を前にくくりつけ、背中には大きな荷物と、野宿をするための毛布をのせて、ソ連兵のレイプを免れるためにザン切りにした、伸びかけの髪を手拭いで縛っています。

舞鶴から送られた資料をもとに作ったものの、中々材料が揃わなかったのですが、舞鶴へ来てから、お仲間同士でいろいろ集められて、少しずつそろそろなってきました。私が子供に被せている上着も会員さんからの物。赤ん坊を縛っているさらしは腹巻だったとか。襦ではありませんよ。子供の服や靴も新しくするというので、会員さんのお孫さんが、土のついた石でわざと汚してくれました。ちょっと、遅すぎるといふ声もありますけど、弱々しい女性ではあれだけの苦難を超えられなかったといふことになってください。

連日、たくさんのお客さんが来られて、子どもたちの引揚、その子らのお父さんの連れて行かれたシベリア抑留のお話、そして、内地で出征したお父さんの帰りを待ちわびる留守家族の様子など、四篇の紙芝居を熱心に見て行かれます。エンドレスで流れている紙芝居の録画をじつ見ている子どもさん。涙を流す彼女の背中をそっと撫でている彼氏。この女の子は六十三年前の私の姿ですと涙される婦人も居られました。

来月は、市内の小学校へ連れて行って下さるのだとか。企画展はあとひと月ほどで終わるそうですが、これから、いろんな形で利用していただけたらうれしいです。また、今後も皆さんのお宅に古いお鍋や衣類など当時を偲ばせるようなものがありましたら、ご協力下さればありがたいです。

これからもどうぞよろしくお願い致します。
(樟記)

私見
『舞鶴引揚記念館』もはや名は体を表さない

開館して二十年を過ぎた。この間来館者数は暫減して昨年は年間十二万人を切り、お先の寒い限りである。この原因は何だろう。記念館のネーミング

にあることは間違いなく大きな原因の一つであろう。開館当時は国民の大多数が戦争を経験し、「引揚」の意味を知っていたから記念館の開館に大きな興味を持っていたし、期待をもって来館したに違いない。しかるに現在「引揚」の意味をどれだけの人が知っているだろうか、おそらく国民の半数以上？がこの言葉を知らないのではなかろうか。それも年々その数が増えるのである。そのような状況の下で来館者の増加など期待のしようがない。名前はそれが商品に限らず関心をいかに関きつけるか、多くの人がそのネーミングに日夜努力をし、そこには悲喜こもこももの逸話も多い、ネーミング如何で結果に大きな違いが出てくるからである。しかるに当記念館においては開館20年を経た今日においても「引揚」なる死語（そのように言っても決して過言ではないだろうが）を使っている。戦争経験のない人や「引揚」の意味も分からない人が国民の半数以上を占める現在では、もはや名は体を表していない。来館者の中には、沈没船からの引き上げ物が展示してあるところ、と理解しての来館者があり、笑えない逸話として語られている。ネーミ

ングからその内容が連想できないような施設に行ってみたいと誰が思うであろう、それもアクセスの非常に悪い場所へ。ここで舞鶴が誇れる平和の発信基地として「引揚」にこだわらない内容の充実と今後のより発展を願って、新しいネーミングの検討に入っても良いのではないだろうか。せめて月並みではあるが『舞鶴平和ミュージアム』とか『ミュージアム・ピース舞鶴』、これなら今以上多くの国民に内容の言わんとするところが連想され、来館者の増加も期待できると思うのは自分だけであろうか。

（森下）

・注意:

活動日誌に活動内容の記載なき日が二日分有ります。出勤された人は活動内容を記載して下さい。

連載

「兵卒のシベリア捕虜記」

著者・門間祐太郎

編集・南澤 武

（前号・・・この柵の内の中央部に煙突のような物が突き出ていました。皮付き丸太で校倉造り風に造った馬小屋のような建物が点々とありました。この小舎を中心に生活が始まったのです。）

この後、収容所が変わる毎に、先ず収容所内の医務室に連れ込まれ、素っ裸にされて、身体中の毛、頭髮、脇の下、陰毛まで剃り落されサウナ風呂で消毒され、囚人服を着せられました。その度毎に、何とか隠し持っていた私物を保持するのに苦労しました。何しろ先着のわが仲間がたちまち横取りしてしまうのですから。その後ナホトカに着くまでの捕虜生活の間、正確には覚えていませんが十数カ所ばかり、似たりよったりの収容所で、ダモイ、ダモイだ、「帰国するのだぞ」とぬか喜びさせた後、ダバイ、ダバイと叱咤されながら各地を転々と移動しました。

飢えを凌いで（口にするもの）

始めは降伏した時の部隊組織そのままだったので、捕虜になってからも、暫くの間は各班ごとの使役（水汲み、蒔き割り、便所掃除、古参兵殿への肩もみ、その他あらゆる雑役）をやらされた為に一般規定の作業が終わった後も、私たち現地招集の新兵は借り出されました。捕虜に割り当てられた缶詰、甘味、穀物を取り上げるのはおろか、酒造りまでやっていた古参兵殿の残り物で私たちは身体の栄養を保たせるのですから、年とった現地召集兵達はバタバタと栄養失調で倒れてゆきました。「暁に祈る」といった実話や小説や映画がありました、それ以上に虚しい状態でたくさんの方が異国の地に散っ



ていったのです。

他人の食料を横取りしたという疑いで、命がけの争いも毎日毎晩のように起こりました。

要領の悪い動作の鈍いひ弱い応召兵がたいてい被害になって先ずダウンしてゆきました。

中には人目も憚らず、炊飯釜を洗い流したときに出た焼け焦げに飛びつき、野良犬のように貪って食べる者もいました。森林伐採の作業では、我勝ちに松くい虫を探して食べたり、厚く堅く凍った地面を鉄棒で一時間もかけて穿って一握りの笹の根っこを掘り出して食べた事もありました。

倉庫品の整理に四人で使役に行って、上手く鼠を一つ匹捕まえ、その手足を一本づつ四人で分けて食べる事にしたところ、一人が内臓や頭や尻尾を一人占めしたといって大喧嘩になったこともありました。

この鼠を食することについては次のような口コミ、ニュースもありました。食品庫に限らず、野原でも何処でも鼠を見つけると捕虜達は仕事を放り出して四々五人で追い出して手づかみで捕らえて、直ぐに皮をはぎ、針金に串刺

しにして焚き火で焼いて、焼き鳥として賞味してしまいます。捕虜のいる地域では鼠の姿が全く見られなくなり、食品庫やその付近からは鼠が根絶して、倉庫番の仕事がなくなったという椿事まで起こっていました。

次第に鼠は日本人の好物なのかといわれるようになり、鼠に穀類を食い荒されて毎年困っていたウクライナのある地域では捕虜を移動させ鼠退治をさせるなんていう本当らしい笑い話さえ伝わってきました。

捕虜が働きまわされる境界から数メートル離れて張り巡らせてある収容所の有刺鉄線の柵へ近づく、脱走兵とみなされて四隅の望楼にいる監視兵に射殺される事になっている。

しかし、この数メートルの空き地は、踏み



荒らされていないので、木の実、草の実、がたくさん見えます。棒切れを伸ばして取るのがもどかしく、身体ごと近寄って取ろうとして射殺された者を何度となく見ました。監視兵の気まぐれな悪ふざけか？、或はまた、瀕死の同僚を喜ばす為の義挙か？各人、各様の動機が会ったことでしょう。

作業に出て目に付いた茸（きのこ）を手当たり次第にとつて食べて、その茸の毒に当たって死んでしまった人も何人もいました。一寸でも見逃したら忽ち茸全部を他人に横取りされてしまうのですから他の人に相談したり、考えたりする余裕などなかったのです。

薄暗い兵舎の中に異様な臭気が立ち込めるので調べてみたら、作業に出た同室の者が、作業に行く途中で道端に転がっている馬鈴薯（実は凍った馬糞）をこっそり飯ごうに忍ばせて持ち帰り、暖炉に掛けておいた、というような事もありました。

前に述べたように、一般の捕虜には、規定の配給量を色々な仕組みで何割もピンはねした残りを見せかけは頗（すこぶ）る公平、平等に各班毎に分配されるので、計量する人の手元を見る各人の目線は真剣です。クロバンや半ば凍りかけた粥は舎内の低い天井の梁から吊るされた針金で作

られた天秤状の計量器を使い、当番兵の手で、まづ一つ杯分の粥が二つの飯（ごう）蓋に盛り分けられ、その一つが更に二つの飯（ごう）蓋に分けられ、ここで四人分の量が確定します。両方がびたり同じ水平になるのを見つめる人の眼光は、鳥肌が立つほど恐ろしいものでした。

私はこの盛り付けの当番に選ばれた事がありました。左右の不均衡を是正する為に一辺のパン屑を一方の皿に添加してすばやく三五〇グラムを計量しました。建設作業の現場で種々の計量方法を覚えこんでいた事がこのとき役に立ちました。

……次回続く……

9月の活動実績

稼動日数 30 日

ガイト数 2,522 人

予約数 13 件

予約人数 385 人

稼動会員数 15 人

募金箱 55,000 円

ご苦労様でした。